二〇七五年二月二十五日

学校の梅がきれいに咲いている。

シンジョーは小学生の頃、担任から聞いた話を今でも覚えている。「梅は、どの花よりも先に春の訪れを教えてくれる。他の花が、春が来たことを迷っているときに、自ら咲く。梅の心は、元気の心。だから梅を見ると、元気が出る。」

この話を聞いた次の日から、登校してきたとき、下校するとき、必ず梅の花を見るようになった。五十年前から、毎年同じ場所で、元気に花を咲かせている扇小学校の梅を見ると、なんだか不思議な気持ちになる。シンジョーは今でも梅の花が好きだ。先生のちょっとした話が、物の見方を豊かにしてくれると思うようになった、そのきっかけだったかもしれない。それが、梅の花なのだ。

今日の予定を校長室で映し出す。

9時　席替え会議（一～四年）

10時　席替え会議（五、六年・おうぎ）

11時　クラス会議　二年仲組

12時　放送委員会との会談

2時　二分の一成人式

3時　入間地区校長会議

4時　九九検定（オンライン）

9時から始まった席替え会議は、比較的早く終わった。シンジョーが思っていたとおりの配慮を、担任がしてくれていたからだ。シンジョーは、自分が小学校の時のことを思い出した。自分はいつも後ろの方だった。そして目が悪い子は前の方と決まっていた。今では、黒板は電子になり、自分のパソコンでも見ることができるので、視力は座席とは関係なくなった。今、座席で考えなくてはならないのは人間関係と学び方である。ペアとグループが学習の中心となるので、なるべくいろんな学び方の子を同じグループになるようにしている。

放送委員会との会議では、三月からの放送内容を決めた。委員会の子と授業中に会議をするのは、珍しいことだ。委員会の子からの要望があれば応じることにしているが、年に一回あるかないかである。放送委員会では、給食中の放送内容と下校時の音楽を変えたい

ので校長先生の許可がほしいと、会議の申し入れをしてきた。

会議で出された、放送委員会の子の提案は、次のものであった。

〈給食中の放送内容〉

・自分の宝物を発表する

毎日一人ずつ　一年生から始める

・子供の時の思い出

毎週一人、先生が思い出を話す

・今日の一曲

合唱や合奏を毎日流す

授業で録音したものを流す

〈下校時の音楽〉

・リクエストで決める

・毎週金曜日に投票する

・一番多かった曲を次の週に使う

シンジョーは基本的にすべてに賛成した。ただし給食中の放送は、食事中ということもあるので、「宝物」以外は音源だけにしてほしいと伝えた。映像を流すと食事が進まない子もいるからである。会議が終わると、放送委員の子は、「がんばります」と笑顔で言って、教室に戻っていった。約三十分で話し合いは終わった。

一時半を過ぎると、第一体育館に三、四年生の保護者が集まり始めた。また、入間ケーブルテレビとTBSテレビ、NHKラジオの取材班もやってきた。

扇小では、以前から「二分の一成人式」を行っている。シンジョーが小学生の頃は四年生だけで行っていたが、時代が変わり、三、四年生で行うようになった。成人の年齢が十八歳になった頃から、三年生も四年生も「二分の一成人式」を行っていた。それを、今年から合同で行うことにしたのだ。

今年、百周年ということもあり、シンジョーはある提案を職員会議に出した。「二分の一成人式」の中身を整理したのだ。

一ねらい

成人の半分生きてきたことを祝う

二対象

三年生と四年生

三実施方法

三、四年生合同で行う

四発表内容

三年生・「失敗談」「家族への感謝」

四年生・「友への感謝」「描く大人像」

どこで聞きつけたのか、この日を迎える前には埼玉新聞から取材の依頼が来た。シンジョーは、本番ではなく、準備している様子を記事にしてほしいと対応した。その思いが通じ、新聞記者は、一ヶ月前から何度か取材に来てくれた。記者がテレビ局にもその様子を伝えてくれたようで、本日三つの局が取材に来てくることになったのである。

二時。「二分の一成人式」は始まった。司会進行は四年生である。会場の飾りは三年生が行った。体育館の壁いっぱいに貼ってある写真は、四年生が集めたものだ。赤ちゃんの時の写真、幼稚園のときの写真、小学校に入学してからの写真、家族旅行の写真、家族団らんの写真、地域でのスポーツ大会の写真などが、びっしり貼ってある。そして一番目をひくのが、四年生が作った「二十歳の自分」の写真である。AIで三四年生全員の写真を作ったようだ。名前は書いていないが、ほとんど想像ができる。

まずは、三年生の発表があった。一人ひとりがステージ上で、堂々と発表していった。

「わたしのこれまで一番の失敗は、入学したばっかりの時に、先生を〝お母さん〟と呼

んでしまったことです。友達に笑われて、恥ずかしかったけど、友達もたまに先生を呼ぶときに〝お母さん〟と言っていたので、落ち込みませんでした。

家族に一番感謝しているのは、毎日おいしいご飯を作ってくれるお母さんです。私は、お母さんが作るカレーライスが、世界で一番大好きです。お母さん、いつまでも元気で、おいしいカレーライスを作って下さい。たまには、少し味を変えてくれてもいいです。」

会場に来ている保護者からは、時折笑いが起こったが、感激して涙している人も多かった。

四年生の発表も、みんな個性的で素敵だった。

「十歳になり、小学校四年生になって、私は友達にとっても感謝しています。分からない勉強を教えてくれたり、一緒に遊んでくれたりしてくれて、ありがとう。今日は、特に、イナバさんにお礼を言います。私が遊んでいたときに、シャツが破けてしまったときに、お母さんに怒られそうだからと言って、自分もシャツを破いて、一緒に家

まで来てくれて、うれしかったです。

私は、友達を大事にする、友達の気持ちが分かる、イナバさんのような大人になりたいです。」

担任の指導が入っていたようで、友達の名前を出して話す子が多かった。

「四年夢組の皆さん、いつも私に優しくしてくれて、本当にありがとう。私は、勉強が苦手だけど、みんなが優しく教えてくれるから、学校の勉強が嫌いにならないですみました。先生の話は難しいけど、みんなが教えてくれることは、よく、分かります。

クリヤマさんは、私がテストで０点だった時に、一緒に、がんばろう、と言ってくれましたが。あの時は、本当にうれしかったです。これからも、よろしくお願いします。

私は、夢組のみんなのように、大人になったら、困っている人をたすけられるようになりたいです。そのためには、いっぱい勉強しなくちゃいけないから、先生の難しい話も、がんばって聞きます。」

この時は、夢組の子から大きな拍手と笑いが起こった。担任は困った顔をしていたが、嬉しそうだった。

式が終わり、体育館から出て行く保護者の多くがシンジョーに声をかけてくれた。

「素敵な式でした。大成功(だいせいこう)です」

「お招きいただいて、ありがとうございます」

「テレビでは、いつやるんですか。放送が楽しみになりました。」

「来てよかったです。また来年もやって下さい。また来ますよ」

帰って行く人たちの中に、一緒に鼻歌を歌っている夫婦(ふうふ)がいた。

お母さんの　においみたいな

ぼくらの　ふるさと

朝露を　浴びた武蔵野　ここは入間市・

シンジョーも、幸せそうに帰って行く保護者を見ながら、とっても幸せ(しあわ)な気持ちになった。そして、一人、体育館で歌っていた。

生まれた　ばかりの　朝はまぶしい

野原も　畑も　緑でいっぱいだ